

小学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

国	語
---	---

東京都教職員研修センター

平成15年度

## 教育研究員名簿

低 学 年	足立区	千寿小学校	村上 尋子	1年
	葛飾区	花の木小学校	村田 良美	1年
	港区	青南小学校	永井 ゆか	2年
	八王子市	下柚木小学校	猪野屋 和佳子	2年

中 学 年	大田区	仲六郷小学校	千賀 志津子	3年
	世田谷区	玉川小学校	鈴木 広宣	3年
	中野区	武蔵台小学校	松崎 雅恵	3年
	豊島区	南池袋小学校	込田 幸枝	3年
	荒川区	第四峡田小学校	石野 祥子	3年
	江戸川区	下小岩小学校	福原 聡子	3年
	国立市	国立第三小学校	佐藤 栄太郎	3年
	板橋区	金沢小学校	田中 茂子	4年
	武蔵野市	千川小学校	浅見 優子	4年
	小平市	小平第六小学校	加藤 豊	4年

高 学 年	目黒区	月光原小学校	八木 貴広	5年
	日野市	三沢台小学校	豊永 雅子	5年
	福生市	福生第二小学校	大森 雅之	5年
	三宅村	坪田小学校	若林 恵美子	5年
	北区	なでしこ小学校	小宮 孝之	6年
	江戸川区	第七葛西小学校	小辰 幸子	6年
	西東京市	田無小学校	鈴木 美紀	6年

書 写	台東区	浅草小学校	石井 美江	3年
	江戸川区	清新第二小学校	三田 育代	4年
	練馬区	光和小学校	前野 みち江	5年
	昭島市	清泉中学校	乙幡 英剛	中1年

全体世話人

全体副世話人

分科会世話人

全体記録

担当

東京都教職員研修センター統括指導主事

邑上 裕子

# 目 次

## 全体研究主題及び研究の概要

1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題に対する基本的な考え方	3
3 研究内容	3
4 各分科会の研究構想	4

## 各分科会の実践

### 低学年分科会の実践

第1学年 「くじらぐもの劇をしよう」	5
--------------------	---

### 中学年分科会の実践

第3学年 『ちいちゃん日記』を書くために想ぞうをふくらませて読もう	9
-----------------------------------	---

### 高学年分科会の実践

第5学年 「ローラと友達になろう」	13
-------------------	----

### 書写分科会の実践

第4学年 「文字のひみつをさくろう」	17
--------------------	----

研究の成果と課題	21
----------	----

## 資料

1 読みの過程に沿った指導事項と言語活動の例	22
2 「文学的文章を読むこと」の評価規準(例)	23
3 書写の評価規準(例)(小学校及び中学校)	24

### < 要 約 >

本研究では、学習指導要領改善の基本方針を受け、「文学的文章を読むこと」において指導事項を焦点化し、児童・生徒が主体的な読み手となる授業への変換を図る手だてを考えていくことを研究内容の柱として、授業を通じた実践的研究を行った。「書写の指導」においては、児童・生徒が課題をもって書写の学習を進めることにより、身に付けた書写力を日常に生かし、主体的に言葉を使う力を育てることに視点を置き研究を進めることにした。具体的な研究内容としては、児童・生徒が主体的に学習するための指導方法の工夫、言葉に着目して想像豊かに読む力を育てる指導の工夫、個に応じた指導と評価の工夫である。

## 全体研究主題及び研究の概要

### 全体研究主題

言葉への関心を高め、確かな国語の力を育てる指導と評価の工夫

～「文学的文章を読むこと/書写の活動」を通して～

#### 1 研究主題設定の理由

学校生活の様々な場面で、児童に感想を問うことがある。すると、「おもしろかった」「楽しかった」とただ一言が返ってくることが多い。映像文化の中で育ち、読書経験の少ない児童は、言葉の醸し出す味わいを理解したり、言葉から豊かに想像したりする経験に乏しく、自分の思いや考えを表現する語彙を十分にもってはいない。そこで、言葉に着目し、確かな言葉を使う力を養うことが必要ではないかと考えた。この考えを基に、学習指導要領国語科の内容において「思考力や想像力及び言語感覚を養うこと」に関する研究を進めることにした。

東京都教育委員会による「平成 15 年度基礎的・基本的な内容の定着に関する調査」には、「文章を正しく読む」問題の正答率が低く、言葉への関心を高め正しく読み取る力や、読み取りから自分の考えをもつ力を育てる必要があることが述べられていた。また、「平成 13 年度教育課程実施状況調査の教科別分析状況報告」には、「文学的文章を読むこと」について「多くの教師は児童にとって理解しやすく興味をもちやすいと考えているが、児童はよく理解できないという意識をもっている。」とあり、「読むこと」の指導の工夫が必要であることが分かった。「読むこと」の学習の中でも「文学的文章を読むこと」は、情景や心情を表す多彩な言葉と出会い、一人一人の考えや思いのよさを言葉で表現し理解することにつながる。心に響く文章を読むことは、児童を読書へといざない、生き方にかかわる多くの示唆を得て自らの人間性を豊かにしていく価値のある学習である。これらのことから、「文学的文章を読むこと」を研究の対象とした。

これまで、「読むこと」の指導、とりわけ「文学的文章を読むこと」は、国語の主たるものとして扱われ、教師は作品の一つ一つを細かに解釈し読み深めることに多くの時間をかけてきた。しかし、学習指導要領改訂の基本方針には、詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、目的に応じた的確に読み取る能力や、読書に親しむ態度を育てることを重視すると述べられている。そこで、多くの指導事項を網羅したり作品を分析・解釈したりする授業から、指導事項を焦点化し、児童が主体的な読み手となる授業への変換を図る手だてを考えていくことを研究の柱とした。

一方、小・中学校書写の指導は、各教科を支える基礎・基本である国語科において、さらにその基礎・基本というべき内容であり、言葉の豊かさに関心をもち、適切に言葉を活用する力を育てることができる学習であると考えた。そこで、児童・生徒が課題をもって書写の学習を進めることにより、身に付けた書写力を日常に生かし、主体的に言葉を使う力を育てることに視点をおき研究を進めることにした。

これらのことから、「文学的文章を読むこと/書写の活動」において、児童・生徒が主体的に学習するための指導方法、言葉に着目して想像豊かに読む力を育てる指導、文字意識を育てる指導、個に応じた指導と評価を重視し工夫することにより、言葉への関心を高め、確かな国語の力を育てることになると考え、本研究主題を設定した。

## 2 研究主題についての基本的な考え方

### (1) 研究主題のとらえ方

「言葉への関心の高い児童の姿」とは、次のようにとらえた。

言葉の豊かさ、響きに関心をもっている。 (関心)

主体的に課題に取り組もうとしている。 (意欲)

言葉に着目して読み、豊富な言葉を適切に活用して、自分の言葉で考えを深めている。  
(言語感覚)

「確かな国語の力」とは、次のようにとらえた。

正しく読み取る力 (叙述内容に即した読み)

想像豊かに読み深める力 (想像的な読み)

読むことを通して自分の考えをもつ力 (感想・意見)

学習したことを生かす力 (日常化)

#### 目指す児童・生徒像

- ・自らの課題をもち、進んで読む子
- ・優れた叙述や表現に着目して、想像したり考えたりしながら読む子
- ・より効果的な言葉を選んで使おうとする子
- ・読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする子

### (2) 研究仮説

目指す児童・生徒像に迫るために、次のような研究仮説を立て、それに基づいて研究を進めることにした。

「文学的文章を読むこと/書写の活動」において、学習過程に沿った指導事項を明らかにし、児童・生徒の課題を生かした学習過程や個に応じた指導と評価を工夫することにより、言葉への関心を高め、確かな国語の力を育てることができるであろう。

## 3 研究内容

児童・生徒が主体的に学習するための指導方法の工夫

児童・生徒の課題を生かした学習過程と日常化に結び付く活動(書写)の工夫を行う。

言葉に着目して想像豊かに読む力を育てる指導の工夫

指導事項を整理し明確にし、「読みの過程に沿った指導事項と言語活動の例」(巻末資料1)に整理する。それを基に学習材の特性に応じて、効果的な言語活動を工夫する等、確かな国語の力を身に付ける指導の工夫を行う。

個に応じた指導と評価の工夫

「文学的文章を読むこと/書写の活動」の評価規準を「文学的文章を読むことの評価規準(例)」(巻末資料2)「書写の評価規準(例)(小学校・中学校)」(巻末資料3)に整理し明確にする。それを基に、評価計画・支援計画を立て、個に応じた支援方法の工夫等を行う。

## 4 各分科会の研究構想

### 低学年分科会研究主題

言葉を大切に、想像を広げながら読む力を育てる指導と評価の工夫

### 中学年分科会研究主題

言葉を手がかりに、想像豊かに読む力を育てる指導と評価の工夫

### 高学年分科会研究主題

言葉に着目し、優れた叙述を味わいながら読む力を育てる指導と評価の工夫

### 書写分科会研究主題

文字意識をもち、主体的に言葉（文字）を使う力を育てる指導と評価の工夫

#### 研究主題のとらえ方

「言葉を大切に読む」とは

- ・一つ一つの語句や表現に注意しながら読む。
- ・課題をもって読むことを知り、読むことを楽しんでいる。
- ・叙述と結び付けて、場面ごとの想像を広げて読む。

「想像を広げながら読む力」とは

- ・叙述と結び付けて、場面ごとの想像を広げて読む。
- ・場面の様子などを豊かに思い描いて読む。
- ・楽しんで読書する。

#### 研究主題のとらえ方

「言葉を手がかりに読む」とは

- ・表現の役割や価値をとらえて読む。
- ・教師や友達と話し合っ課題をもち、それに沿って読もうとしている。
- ・中心となる語や文をとらえながら読む。

「想像豊かに読む力」とは

- ・物語の山場などをとらえる。
- ・場面の移り変わりや情景、登場人物の性格や行動を叙述を基に想像しながら読む。
- ・興味をもち、幅広く読書する。

#### 研究主題のとらえ方

「言葉に着目して読む」とは

- ・表現のよさや表現の効果を感じ取って読む。
- ・人物の心情を表現や叙述と関係付けて読む。
- ・自分の課題をもって読もうとしている。
- ・人物の心情に迫る情景などの叙述を見いだして読む。

「優れた叙述を味わいながら読む力」とは

- ・話の展開を理解しながら読む。
- ・叙述を基に人物の心情や情景を想像しながら読む。
- ・読書を通して考えを広げたり深めたりする。

#### 研究主題のとらえ方

「文字意識をもち」とは

- ・文字に対して関心をもつこと
- ・文字を正しく理解すること
- ・文字を大切にすること

「主体的に言葉（文字）を使う力」とは

- ・身に付けた力を日常生活に生かす。
- ・読み手を意識し、伝達効果を考えて書く。
- ・書き手の文字の語感を読み取る。

#### 目指す児童像

- ・課題をもって読む子
- ・叙述に即して想像を広げながら読む子
- ・言葉のリズムや響きを味わいながら、声に出して読む子
- ・楽しんで読書しようとする子

#### 目指す児童像

- ・課題をもち、進んで読む子
- ・中心となる言葉を手がかりに読む子
- ・言葉のもつ役割や価値をとらえ、様々な言葉を使おうとする子
- ・興味をもち、幅広く読書しようとする子

#### 目指す児童像

- ・自らの課題をもち、進んで読む子
- ・優れた叙述や表現に着目して想像したり考えたりしながら読む子
- ・より効果的な言葉を選んで使おうとする子
- ・読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする子

#### 目指す児童像

- ・文字に対して課題意識をもち、主体的に書こうとする子
- ・作品を通して、学び合い、高め合える子
- ・身に付けた書写力を生活に生かせる子

#### 低学年分科会研究内容

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- ・児童が見通しをもって学習できる学習過程の工夫

言葉を大切に読む力を育てる指導の工夫

- ・文章の特徴に応じた効果的な言語活動の設定
- ・言語経験を豊かにするための学習活動の工夫

個に応じた指導と評価の工夫

- ・一人一人の読みの時間を確保するための指導の工夫
- ・座席型評価カードを基にした支援計画

#### 中学年分科会研究内容

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- ・初発の感想を生かした課題設定と学習過程の工夫

中心となる言葉を基に読む力を育てる指導の工夫

- ・手がかりとなる言葉の課題に応じた焦点化
- ・言葉を基に、読み深めるための学習活動の工夫

個に応じた指導と評価の工夫

- ・個の読みの深まりが分かるワークシートの工夫
- ・座席型支援カードを基にした個に応じた支援方法の工夫

#### 高学年分科会研究内容

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- ・共通の課題や自分の課題を基に読み深める力を育てる学習過程の工夫

優れた叙述に着目して読み進める力を育てる児童の工夫

- ・作品の特性に応じた指導事項の焦点化
- ・自分の読みを確かなものとする学習過程の工夫

個に応じた指導と評価の工夫

- ・自己評価する力を高める工夫
- ・前単元・前時の評価を生かした支援方法の工夫

#### 書写分科会研究内容

主体的に文字を使う力を育てる指導の工夫

- ・試し書きから自分の課題を見付け、まとめ書きとの比較により達成感の味わえる学習過程の工夫

文字意識をもって取り組むための指導の工夫

- ・日常の文字の課題を意識できるワークシートの工夫
- ・児童生徒が課題を意識し興味関心をもてる導入の工夫

個に応じた指導と評価の工夫

- ・課題ごとの練習用紙と発達段階に応じた自己評価の工夫

## 低学年分科会

### 1 分科会研究主題

「言葉を大切にし、想像を広げながら読む力を育てる指導と評価の工夫」

### 2 低学年分科会の実践

#### (1) 単元名 「くじらぐもの劇をしよう」

学習材 「くじらぐも」 (光村図書 1年 下)

#### (2) 単元の目標

場面ごとの様子を思い浮かべたり、想像を広げたりしながら読む。

場面の様子を想像し、語や文としてのまとまりや内容を考えながら声に出して読む。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・場面の様子を想像しながら読み、進んで子どもたちやくじらぐもになりきって音読したり、動作化したりしようとしている。	・場面の移り変わりを追い、粗筋を押さえながら子どもたちやくじらぐもの様子を想像豊かに思い描いて読んでいる。 ・語や文のまとまりや内容、呼びかけるとき声の大きさなどを考えて、はっきりした声で音読したり動作化したりしている。	・平仮名や片仮名及び新出漢字を正しく、はっきりした発音で読んでいる。 ・繰り返しのおもしろさに気付きながら読んでいる。

#### (4) 研究主題に迫るための手だて

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- ・初発の感想を基に読みのめあてを考え、教師と共に学習の計画を立てる。
- ・単元全体や1時間ごとの学習過程を明確にし、児童が見通しをもって学習できるようにする。言葉を大切にしながら読む力を育てる指導の工夫
- ・第一場面は音読・動作化、第二場面と第三場面は音読、第四場面と第五場面はワークシートに書くというように、場面に応じた読みの活動を設定する。
- ・想像を広げるために、音読、動作化、サイドライン、ワークシートなどの手だてを工夫する。
- ・図書館等から作者の絵本を集め、児童が随時読めるように環境を整える。
- ・学習の終わりに、劇のように表現する活動を行うことによって、読み取ったことを表現し、想像を豊かに広げる。

個に応じた指導と評価の工夫

- ・一人一人の読みの機会を保障するために、初発の感想を書く、サイドラインを引く、読み取ったことをワークシートに書くなどの活動を取り入れる。
- ・1時間の授業の中で、できるだけ多くの児童を評価できるように、座席型評価カード1を作成する。そこには、音読、動作化、サイドライン、発言などの評価方法をあらかじめ入れておき、簡単な印を記入する。また、座席型評価カード2には、著しく伸びの見られた児童など、気付いたことを記入する。座席型評価カードを基に、支援計画を立てる。
- ・児童の自己評価につながる音読カードを工夫する。
- ・1時間ごとに学習の振り返りをするための時間を設ける。

(5) 学習指導計画・評価計画 (12時間扱い) (検証授業の本時 7/12)

時間	主な学習活動	指導事項	評価計画 評価規準 評価方法 支援 研究主題に迫るための手だて【工夫】
出 会 う	1 作者の作品の読み聞かせを聞く。	作者の作品の読み聞かせを楽しんで聞くこと。	作者の作品の読み聞かせを行う。区立図書館から、作者の絵本を団体貸し出しで借り、児童が即座に読めるように読書環境を整える。 【主体的に学習する】 単元全体を通して座席型評価カードに評価を記入し、それを基にして支援計画を立て、支援を行う。【個に応じた指導と評価】
	2 全文を読み、感想を話し合い、初発の感想を書く。	心に残ったことや、好きなどころなどを見付けながら全文を読むこと。	心に残ったことや、好きなどころなどを見付けながら全文を読んでいる。 発言・つぶやき・感想を書くワークシート 教師が範読する。 挿絵を掲示し、粗筋をつかみやすくする。
	3 学習計画を立てる。	学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつこと。	教師と共に学習計画を立て、自分なりに単元の学習の見通しをもっている。 発言・つぶやき 初発の感想を基に、児童の初めの読みを大切にしながら、全体で学習計画を立てるようにする。【主体的に学習する】
	4 新出漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりする。	新出漢字や片仮名を正しく読んだり書いたりすること。	新出漢字や片仮名を正しく読んでいる。 ノート 児童が分からない言葉があれば、意味や用法を説明する。
読 み 進 め る	5 くじらぐもと子どもたちとの出会いの場面を動作を入れて声に出して読む。	くじらぐもと子どもたちとの出会いの様子を想像しながら動作を入れて声に出して読むこと。	くじらぐもと子どもたちとの出会いの様子を想像しながら動作を入れて声に出して読んでいる。また、くじらぐもがまねた五つの動きにサイドラインを引いている。 音読・動作化・サイドライン・音読カード くじらぐもがまねた五つの動きにサイドラインを引いたり、動作化したりしながら、叙述に即して押さえるようにする。 【想像を広げながら読む】
	6 くじらぐもと子どもたちとの交流の様子を声に出して読む。	くじらぐもと子どもたちとのやりとりを想像し、声に出して読むこと。	くじらぐもと子どもたちの様子を思い浮かべながら、会話文を工夫して音読している。 サイドライン(マーク)・音読・音読カード 会話文にマークを付けて、子どもたちとくじらぐもの言ったことを確認する。 【想像を広げながら読む】
(本時)	7		
	本時の目標 くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子と、それを応援するくじらぐも様子を工夫して声に出して読む。		
	本時のめあてを確認する。	本時のめあてをつかむこと。	くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子を工夫して音読しましょう。
くじらぐもの言ったことやしたこと、子どもたちの言ったことやしたことを考えながら、本時の学習範囲を読む。 *会話文に着目し、くじらぐもと子どもたちの言ったことにマークを付けて確認する。  楽しいところ、好きなどころ、声に出して読んでみたいところにサイドラインを引き、書き込ん	会話文に着目して、場面の様子を想像しながら読むこと。 ・「天までとどけ、一、二、三。」 ・「もっとたかく。もっとたかく。」  叙述に即して、くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子を想像しながら読むこと。	会話文にマークを付けることに戸惑っている児童に助言する。 書き込みが終わった児童は、会話文を工夫して音読しているように声をかける。 マークを付けたところについて、全体で確かめ合うようにする。	



	<p>だことを基に場面の様子について話し合う。</p> <p>音読カードにめあてを書き、工夫して音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で練習する。</li> <li>・2～3人組で交代で音読する。</li> <li>・めあてを言ってから、音読する。</li> <li>・2～3人組での音読が終わったら、他の人に聞いてもらう。</li> </ul> <p>学習の振り返りをする。音読カードの「ふりかえりコーナー」に記入する。</p>	<p>くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子を想像し、声に出して読むこと。</p> <p>学習の振り返りをする。</p>	<p>場面の様子を思い浮かべて、自分なりに工夫して音読している。音読の様子の観察・サイドラインの引き方・音読カードのめあての書き方 具体的な児童の姿</p> <p>(B) 会話を大きな声で読むなど、子どもたちになりきって語句をままとりとして読んでいる。また、読んでみたいところ1カ所以上にサイドラインを引いている。</p> <p>(A) くじらぐもが応援している様子や地の文なども工夫して読んでいる。数カ所にサイドライン。</p> <p>(C) Bに満たない。</p> <p>声の大きさ、気持ち、動作など音読の工夫の視点を提示する。工夫することが難しい児童には、具体的な叙述に沿って助言する。</p> <p>戸惑っている児童には、サイドラインを引く視点を確かめながら、助言する。</p> <p>迷っている児童、印だけで終わっている児童に助言する。 【 想像を広げながら読む】</p> <p>記入が終わった児童何名かが「ふりかえりコーナー」に書いたことを発表するようにする。</p> <p>音読の評価については、音読カードやサイドラインを参考にしながら5～7時の中で、全員を評価するようにする。</p>
	<p>8 くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を想像し、発表し合う。</p> <p>9 くじらぐもと別れる子どもたちの様子を想像し、発表し合う。</p>	<p>くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を想像しながら読むこと。</p> <p>くじらぐもと別れる子どもたちの様子や気持ちを想像しながら読むこと。</p>	<p>くじらぐもに乗って空を旅する子どもたちの様子を想像しながら読んでいる。</p> <p>音読・動作化・発表・つぶやき・ワークシート</p> <p>くじらぐもに乗ったつもりで、何が見えたか、友達とどんな話をしたのかなどを想像して話し合い、ワークシートに書くようにする。 【 想像を広げながら読む】</p> <p>くじらぐもと別れる子どもたちの様子や気持ちを想像しながら読んでいる。</p> <p>音読・動作化・発表・つぶやき・ワークシート</p> <p>「さようなら。」の後に続く言葉を吹き出しに書いたり、動作を入れて音読したりする活動を通して、くじらぐもと別れる子どもたちの様子や気持ちを想像しながら読むことができるようにする。 【 想像を広げながら読む】</p>
<p>生かす</p>	<p>10 これまで学習したことを生かして、1～3の場面を劇のように表現する。</p> <p>11 これまで学習したことを生かして4と5の場面を劇のように表現する。</p> <p>12 「くじらぐも」全体を通して劇をする。</p>	<p>これまで学習したことを生かして、叙述に即して動作化しながら劇のように表現すること。</p> <p>これまでの学習でワークシートに書いたことや叙述を基にせりふを考えて劇のように表現すること。</p> <p>これまでの学習を生かして、「くじらぐも」全体を通して劇をすること。</p>	<p>これまでに学習してきたことを思い出しながら、自分なりに動きを考えて動作化しようとしている。繰り返しの面白さを味わいながら、音読しようとしている。</p> <p>音読・動作化・グループ内での発表・つぶやき</p> <p>グループで役割を決め、これまでに学習してきたことを思い出しながら、叙述に即して動きを考えるように助言する。 【 想像を広げながら読む】</p> <p>これまでに学習してきたことを思い出しながら、自分なりに動きを考えて動作化したり、音読したりしている。</p> <p>音読・動作化・グループ内での発表・つぶやき</p> <p>グループで役割を決め、これまでの学習でワークシートに書いた吹き出しなどを基に、これまでに学習してきたことを思い出しながら、せりふや動きを考えるように助言する。 【 想像を広げながら読む】</p> <p>これまでに学習してきたことを思い出しながら、自分なりにせりふや動きを考えて劇をしようとしている。</p> <p>劇をしている様子・グループ内での発表・つぶやき</p> <p>相手意識をもって劇ができるようにする。</p>

(6) 検証授業の考察（研究主題に迫るための手だてについて）

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫について

- ・個人で読む、話し合う、二人組で交代で音読する、学習の振り返りをするという1時間の学習過程の工夫をしたことで、個の読みの時間を保障することができ、児童が見通しをもって主体的に学習することができた。

言葉を大切にしながら想像を広げながら読む力を育てるための指導の工夫について

- ・限られた時間の中で想像を広げながら読む力を育てるために、場面に応じた読みの活動を設定した。動作化によって想像を広げたい第一場面は音読と動作化、会話文が多く音読によって想像を広げるのにふさわしい第二場面と第三場面は音読、書くことによって想像を広げるのにふさわしい第四場面と第五場面はワークシートに書くという活動にした。音読で確かに読み、ワークシートに書くことや劇のように表現することで想像を広げることができた。また、場面に応じた読みの活動を設定したことで、より多くの児童が意欲的に学習に取り組むことができ、個を生かすことができた。
- ・めあてを音読カードに書き、めあてを言ってから音読することで、工夫して音読しようとする意識を育てることができた。今回は、「『天までとどけ、一、二、三。』を大きな声で読みたい。」というめあてが多かった。1年生のこの時期は、「大きな声で」ということが具体的で分かりやすいめあてだったためであろう。児童の音読のめあてを「想像を広げながら読む」ことにさらに近づけるため、どんな気持ちで言っているのかを考えさせるなどの発問を工夫していきたい。

- ・1年生の10月という時期で、文学教材にサイドラインを引くことは初めての学習だったので、どの児童も迷わず引けるように、「楽しいところ、好きなところ、声に出して読みたいところ」にサイドラインを引くようにした。その結果、全員がサイドラインを引くことができた。次の文学教材の学習では、「気持ちを込めて読みたいところ」に引くなど、「言葉を大切にしながら想像を広げて読む」ことにつながる学習に高めていきたい。

No.3	A	B	C	No.7	A	B	C
発言				発言			
音読		C	B	音読	A		
動作化				動作化			
サイドライン				サイドライン			
音読カード	記入に時間			音読カード			

座席型評価カード1

個に応じた指導と評価の工夫について

- ・項目を入れた座席型評価カード1と2を使ったことで、評価をその場で記入することができた。より多くの児童がBの段階に到達できるようにするために、どの児童がどの活動でつまづいているのかを見付けて座席型評価カードに記入した。次の時間にどの活動の時にどの児童を支援するかという支援計画を立てた。
- ・音読の時間を多く設けたり、ワークシートに書いたりするなど、一人一人の読みの時間を確保したことで、児童が主体的に読むことができた。1時間の中で、拾い読みから、語句をまとめりとして読めるようになるなど、伸びが見られた児童もあり、一人一人の読みの時間を確保することが大切だと実感した。

## 中学年分科会

### 1 分科会主題

「言葉を手がかりに、想像豊かに読む力を育てる指導と評価の工夫」

### 2 中学年分科会の実践

(1) 単元名 「『ちいちゃん日記』を書くために想ぞうをふくらませて読もう」

学習材 「ちいちゃんのかげおくり」 (光村図書 3年 下)

(2) 単元の目標

叙述に即して場面の情景を想像したり、行動や様子を表す語句から登場人物の気持ちを想像したりしながら読んでいる。

戦争の中で生きてきた子どもたちについて書かれている読み物に興味をもち、読書の範囲を広げて読もうとしている。

(3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんの行動や様子が分かる語句をとらえ、ちいちゃんの気持ちを想像しようとしている。</li> <li>・自分の感じ方と違う感想があることに気付くとともに、そのよさを生かしてワークシートにまとめながら読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんの行動や様子が分かる語句をとらえ、ちいちゃんの気持ちを想像して日記にまとめている。</li> <li>・戦争の中で生きてきた子どもたちについて書かれた物語や詩、写真集、図鑑などに興味をもち、図書館などで本を探して読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちいちゃんの様子が分かる語句や文、会話文をとらえながら読んでいる。</li> </ul>

(4) 研究主題に迫るための手だて

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- ・学習意欲を引き出すために単元名を工夫し、初発の感想を生かした学習計画を立てる。
- ・担任教諭や司書教諭によるブックトークをしたり、関連する読み物を教室に展示したりすることにより、読書意欲を高める。

中心となる言葉を基に読む力を育てるための指導の工夫

- ・初発の感想を整理し、読みの共通の課題と自分の課題をつくり、各場面での読み取る箇所や手がかりとなる代表的な言葉を選ぶ。
- ・手がかりとなる言葉を見付けるためのサイドラインや、手がかりとなる言葉から想像をふくらませるための音読・動作化・書き込みなどの手だてを工夫する。
- ・自分と違った考えに気付いたり自分の思いや考えを深めたりするために、個の読みの時間を確保し、多様な読みを保障する。また、全体やグループでの話し合い活動の設定、発表された内容の掲示など感想を交流する場を工夫する。

個に応じた指導と評価の工夫

- ・個々の読みの深まりが分かるワークシートを工夫し、自己評価に役立てる。
- ・ワークシートを見合ったり考えを交流したりする場面を設け、相互評価に役立てる。
- ・1時間ごとに用意する座席型支援カードを活用することで、サイドライン・書き込み・日記などの各学習過程で、誰に、どのような支援をするのかを明確にし、指導に役立てる。

(5) 学習指導計画・評価計画 (12時間扱い) (検証授業の本時 8 / 12)

時間	主な学習活動	指導事項 着目する言葉	評価計画 評価規準 評価方法 支援 研究主題に迫るための手だて【工夫】				
出 会 う	1 司書教諭によるブックトークを聞く。	「戦争の中で生きてきた子どもたち」を書いた本があることを知り、ほかの読み物に興味をもつこと。	「戦争の中で生きてきた子どもたち」について書かれたほかの読み物に興味をもち読もうとしている。 発表 ブックトークや本の教室内展示によって読書意欲を高める。 【主体的に学習する】				
	2 全文を読み、初発の感想文や感想画をかく。	初発の感想を、感想文か感想画のどちらかを選択してかき、感想をもつこと。	作品に対しての自分の考えや感想をもち、ワークシートにまとめている。 ワークシート				
	3 感想の一覧表を基に交流し合い、気に入った友達の感想を発表する。	一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと。	心に残った場面や文を押さえ、理由も考えられるようにする。 自分の感じ方と違う感想があることに気付き、そのよさをワークシートにまとめている。 感想の一覧表・発言				
	4 感想を基に読みの課題をもち、学習計画を立てる。	初発の感想を場面ごとに整理し、読みの課題をもつこと。	よいと思う感想について印を付け、理由を考えるよう助言する。 読みの共通課題と自分の課題をワークシートにまとめている。 発言・ワークシート 板書したことや友達の発表を参考にしよう助言する。 個々の感想を生かして学習計画を立て、学習意欲を高める。 【主体的に学習する】				
読 み 進 め る	5 場面1から「かげおくりがどんなものなのか」を読み取る。	叙述を基にかげおくりをして、その感想をまとめること。 「青い空」「すごうい」 「今日の記念写真だなあ。」	かげおくりのしかたが分かる叙述をとらえて体験し、その楽しさを感想にまとめている。 行動の様子 サイドラインを引いた語句や文を確かめるように助言する。 サイドライン・音読・書き込みの活動を通して、叙述を基に登場人物の気持ちを想像できるようにする。 【言葉を基に読む】				
	6 場面1から「お父さんが教えてくれたかげおくりをするちいちゃん」の気持ちを読み取る。	叙述を基に、情景や登場人物の気持ちを想像し、ちいちゃんの気持ちをとらえること。 「(ぼつんと言ったのが)ちいちゃんの耳には聞こえませんでした。」	個別の読みの時間を確保し、多様な読みを保障する。【言葉を基に読む】 話し合い活動をし、感想交流の場を工夫する。【言葉を基に読む】 座席型支援カードで、各学習過程での支援内容を明確する。 【個に応じた指導と評価】				
	7 場面2から「空しゅうの中をにげるちいちゃん」の気持ちを読み取る。	叙述を基に、場面の情景を想像しながら読み、ちいちゃんの気持ちをとらえること。 「ぶつかったり - 」 「ひとりぼっち」「たくさんの人たちの中で」	かげおくりをしているちいちゃんの様子分かる語句や文をとらえ、気持ちを想像して日記にまとめている。 ワークシート 前時のかげおくりを想起させるとともに、ちいちゃんの様子分かる語句を確かめるように助言する。 ワークシートを工夫し、児童が自己評価できるようにする。 【個に応じた指導と評価】				
(本時) 8	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">本時の目標</td> <td>ちいちゃんの会話や動きを表す叙述を基に、「ひとりぼっちのちいちゃん」の気持ちを読み取る。</td> </tr> <tr> <td>本時の学習のめあてを確認する。</td> <td>本時のめあてをつかむこと。</td> </tr> </table>			本時の目標	ちいちゃんの会話や動きを表す叙述を基に、「ひとりぼっちのちいちゃん」の気持ちを読み取る。	本時の学習のめあてを確認する。	本時のめあてをつかむこと。
本時の目標	ちいちゃんの会話や動きを表す叙述を基に、「ひとりぼっちのちいちゃん」の気持ちを読み取る。						
本時の学習のめあてを確認する。	本時のめあてをつかむこと。						

「ひとりぼっちのちいちゃん」の気持ちを読み取る。		
<p>一人一人が本時の学習範囲を知る</p> <p>ちいちゃんがおばさんと一緒に家に帰り、別れるまでの経過を読み取る。</p> <p>なぜ、ちいちゃんはおばさんに付いて行かなかったのかを考える。</p> <p>ちいちゃんの行動や会話文から、家族を待っているときの気持ちを読み取る。</p> <p>・サイドライン、書き込み</p> <p>・全体での交流</p> <p>「ちいちゃん日記」を書き、本時の学習をまとめる。</p> <p>日記を発表し、読み取ったことを交流する。</p> <p>9場面4から「ひとりぼっちのかげおくりをするちいちゃん」の気持ちを読み取る。</p> <p>10 場面5を読み、昔と今を比べる。</p>	<p>叙述に沿ってちいちゃんの行動の経過を読み取ること</p> <p>【予想される児童の反応】</p> <p>・お母さんとお兄ちゃんが帰ると思っているから。</p> <p>・家族を家のところで待とうと思っているから。</p> <p>叙述から家族が必ず帰ってくると強く信じて待つちいちゃんの気持ちを想像すること。</p> <p>「お母さんとお兄さんは、きっと帰ってくるよ。」</p> <p>お深くうなきました。</p> <p>お少かりました(食ました)</p> <p>書き込んだことを基に日記を書くこと。</p> <p>自分が書いた日記と比べて聞くこと。</p> <p>1と4のかげおくりを比べて読み、情景やちいちゃんの気持ちを想像すること。</p> <p>「ふってきた」「花畑」</p> <p>「空にすいこまれて」</p> <p>「空に消えました」</p> <p>場面5を手がかりに、戦争と平和について考えること</p>	<p>家族の帰りを信じて待っているちいちゃんの様子が分かる語句や文をとらえ、ちいちゃんの気持ちを日記にまとめている。</p> <p>教科書の書き込みやワークシートからの分析</p> <p>＜具体的な児童の姿＞</p> <p>(B) サイドラインを引いたところに家族が必ず帰ってくると強く信じて待っているなどのちいちゃんの気持ちを書き込み、交流して見直したり付け加えたりしたことを基に、日記にまとめている。</p> <p>(A) 時の経過が加わっている。</p> <p>(C) Bに満たない</p> <p>「深くうなきました」「少しかじりました(食べました)」を押さえ、様子や気持ちを想像させる</p> <p style="text-align: right;">【言葉を基に読む】</p> <p>友達発言を参考に、ちいちゃんの気持ちを書き込むことを助言する。</p> <p>かげおくりの連いやちいちゃんの気持ちをワークシートにまとめ、それを基に日記を書いている。</p> <p>教科書のサイドライン・ワークシート</p> <p>言葉から分かる情景を考えさせ、それをヒントに気持ちを想像するように助言する。</p> <p>ちいちゃんが今の私たちを見ていたらどんなことを言うのだろうかを想像して日記に書いている。</p> <p>発言・日記</p> <p>日記を読み返し、もしちいちゃんが今の私たちを見ていたらどんなことを言うだろうかという観点で書くよう助言する。</p>
<p>生かす</p> <p>11「戦争の中で生きてきた子どもたち」について書かれたいろいろな本を紹介し合う。</p> <p>12 家の人に読んでもらった日記の感想を紹介し合う。</p>	<p>自分の読んだ本を紹介するとともに、友達の紹介した本に興味をもって読書の範囲を広げること。</p> <p>友達と交流したり、家の人に伝えたりすることのよさを実感すること。</p>	<p>関連した物語や詩、写真集、図鑑など読書の範囲を広げて読んだり興味をもち読もうとしたりしている。</p> <p>発表・聞いている様子</p> <p>教室に引き続き関連した本を展示していく。 【主体的に学習する】</p> <p>読み取ったことを基に、自分の考えをもち、人に伝えることのよさを実感している。</p> <p>ワークシート</p> <p>学習でがんばってきたことや成長したことを児童に伝え励ます。</p> <p>(感想を書いてもらう観点)</p> <p>初発の感想に比べて読み深めた点や努力した点について認めてもらう。</p>

(6) 検証授業の考察（研究主題に迫るための手だてについて）

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫について

- ・単元名を工夫してどんな学習をするのかを明確に示し、初発の感想を生かして学習計画を立てることで、児童はこれまで以上に学習課題を主体的にとらえ、意欲的に学習に取り組むことができた。
  - ・「戦争の中で生きた子どもたち」について書かれた本のブックトークや教室での展示によって、児童が、いろいろな読み物に触れたり、読みたい本をいつでも自由に手に取ることができたりと、読書の範囲を広げ、読書意欲を高めることができた。
- 中心となる言葉を基に読む力を育てるため指導の工夫について
- ・手がかりとなる言葉を探す活動では、教師の発問の工夫により、児童が読みの共通の課題に沿ってサイドラインを引き、中心となる語句や文をよくとらえることができた。どのような観点でサイドラインを引かせ、どの言葉に着目させたいのかをあらかじめ教師自身が押さえておくことが大切である。
  - ・書き込みをする活動では、自分を主人公に置き換えて気持ちを書き込むことで、情景や人物の気持ちを想像することができた。個の読み 読みの交流 個の読みの段階を経ることで、最初の個の読みだけでは気付くことのできなかつた考えに触れ、2度目の個の読みでさらに深めることができた。想像豊かに読むために、個の読みの時間を十分に確保することや多様な読みを保障することに留意したい。
  - ・黙読していただいただけでは気付かなかつた叙述も、実際に声に出して試みることで想像を広げることができ、必要に応じて音読を取り上げることの効果を実感した。
  - ・児童が日頃から書き慣れている日記という形式を、各時間のまとめの活動に取り入れたことによって、意欲的に学習に取り組み、登場人物と同化して文学的文章を読む楽しさを味わうことができた。しかし、日記という形式が学習のまとめとして本教材の特性に適していたかという点については、教材の特性と併せて吟味が必要であると考える。

個に応じた指導と評価の工夫について

- ・サイドライン・書き込み・日記を1枚にまとめたワークシートにより、児童は、自分がどれほど読み深められたのかを知り、互いの考えの違いやよさに気付くことができた。また、教師は、各学習過程での個の読みを把握し、指導に役立てることができた。
- ・座席型支援カードで事前に支援計画を立てたことにより、各学習活動における個への支援内容・方法

サイドライン・書き込み・日記を一枚にまとめたワークシート(例)

サイドラインと書き込み

その夜、ちいちゃんは、ぎつの中のに入れてあるほしいいを、少し食べました。

また食べるから少しだけしよう。

くもった朝が来て、昼

がすぎ、また、暗い夜が来ました。ちいちゃんは、ぎつの中のほしいいを、また少しがじりました。

ちいちゃん日記

十月三十一日(金)お母さん、おととい起きて町を見たら、すぐあはれていてびびくりしたよ。家も焼け落ちて、思い出が消えてすぐかなくなっちゃったよ。わたしは今、ほしいいを少しがじってねようとしているところだよ。のどがかわいて死にそうだけれどがんばるよ。お母さん、今、どこにいるの。早くむかえに来て。会いたいよ。

もう、のどがかわいて死にそうだ。でも、がんばらなくちゃ。

法を具体的にもつことができ、ポイントを押さえて支援することができた。評価については、授業中・授業後等の評価の時期・観点・方法などを今後さらに工夫していきたい。

## 高学年分科会

### 1 分科会主題

「言葉に着目し、優れた叙述を味わいながら読む力を育てる指導と評価の工夫」

### 2 高学年分科会の実践

#### (1) 単元名 「ローラと友達になろう」

学習材 「プラム・クリークの土手で」 (光村図書 5年 上)

#### (2) 単元の目標

叙述を基にローラの成長(心情や性格、考え方の変容)を読み取り、友達と話し合うことを通して考えを深める。

自分の考えを広げたり深めたりするために、本を選んで読もうとする。

登場人物の行動や情景について、優れた叙述を味わいながら読む。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを広げたり深めたりするために、読書しようとしている。</li> <li>情景や登場人物の叙述を味わいながら読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを広げたり深めたりしながら読んでいる。</li> <li>ローラの置かれている状況や情景の叙述に着目し、登場人物の心情の変化を読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>擬人法や過去形・現在形の使い分けによる表現の効果を感じ取っている。</li> <li>分からない言葉について辞書を使って調べている。</li> </ul>

#### (4) 研究主題に迫るための手だて

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

- 共通の課題を基に、毎時間の読みの課題をつくったり、2種類のワークシートを用意し選択できるようにしたりして、どの子も進んで取り組めるようにする。

優れた叙述に着目して読み進める力を育てる指導の工夫

- 言葉に着目できるように、読みの課題に沿ってサイドラインを引く。サイドラインを引いたところを基に、読み深めたことをワークシートにまとめる。
- 関心や意欲を高め、話の展開をつかめるように、映像を活用する。
- 詳細な読みに偏らないように、共通の課題を基に学習を進め、ローラの気持ちを自分の立場から想像して、ローラへの手紙を書く。
- 長編の本を読む力、本を選ぶ力が育つように、各自が「大草原シリーズ」から読みたい本を選んで読む。

個に応じた指導と評価の工夫

- ワークシートと振り返りカードを一体化して、学習の流れと自己評価が明確になるようにする。
- 振り返り欄は、記述式にして、自分の思いを率直に書けるようにしたり、評価の観点を提示したりして、自分を評価する力を高める。

(5) 学習指導計画・評価計画 (10時間扱い) (検証授業の本時 7/10)

時間	主な学習活動	指導事項 着目する言葉	評価計画 評価規準 評価方法 支援 研究主題に迫るための手だて【工夫】
出 会 う	<p>1 テレビドラマ「大草原の小さな家」から一編を視聴する。</p> <p>2 全文を読み、感想をもつ。</p> <p>3 感想を基に課題をつくり、学習の見通しをもつ。</p>	<p>作品の舞台となっているアメリカ開拓地の情景やローラの人柄や家族関係などについて知ること。</p> <p>情景を想像しながら読むこと。 自分なりの言葉で感想を発表すること。</p> <p>共通の課題と自分の課題をもつこと。</p>	<p>ドラマを視聴し、開拓者の生活ぶりについて考えている。 発表・様子 登場人物の名前と家族関係を板書して、作品を理解したり、興味関心を喚起したりするようにする。</p> <p>行動や情景に着目し感想をもっている。 感想カード 印象に残った行動や情景を押さえ、叙述を引用しながら書くように助言する。</p> <p>友達と自分の感想を比べながら、共通の課題を考えている。 発表 感想カードの中で、自分の考えと重なるものや話し合いたいものを考えるように助言する。 互いの感想が分かるように感想カードを整理し、それを基に共通の課題と自分の課題をつくる。 【主体的に学習する】</p>
読 み 進 め る	<p>4 クリークで遊ぶローラの気持ちを読み取る。</p> <p>5 一変したクリークでのローラの気持ちを読み取る。</p> <p>6 命拾いしたローラの変容を読み取る。</p>	<p>行動がエスカレートしていくローラの心情を、ローラの行動についての叙述に着目しながら読むこと。 現在形や過去形の表現の効果を感じること。 「おだやかに」「陽気な音を立てながら」「楽しそうに笑って」 「すごく楽しいのです、それは。」</p> <p>緊迫した状況とローラの生きようとする心情を、クリークの情景を表す叙述に着目しながら読むこと。 「すごい力をもつおそろしいもの」 「ローラなどどうなろうと気にもかけはしないのです。」</p> <p>擬人法などの表現の効果について感じ取ること。</p> <p>ローラの性格や心情、考え方を、行動を表す叙述に着目しながら読むこと。 「何が何でもここからでなきゃ、どうしても」</p>	<p>各学習過程で、考えを深められるようなワークシートを用意する。 【個に応じた指導と評価】</p> <p>クリークで遊ぶローラの心情を、ローラの様子を表す言葉に着目しながら読んでいく。 ワークシート・教科書の書き込み・発表 サイドラインを引いた語句や文を確かめて考えるように助言する。</p> <p>恐ろしいクリークの中で必死に生きようとするローラに対して思いを寄せながら読んでいく。 ワークシート・発表 前時のクリークの様子と大きく変わっている描写を押さえるように助言する。</p> <p>やっつのことで命拾いをして安堵しながらも、クリークの恐ろしさを実感しているローラについて読んでいく。 ワークシート・発表 命拾いをしたものの、家の中に入れないローラの気持ちを想像するように助言する。</p>



<p>(本時) 7</p>	<p>本時の目標</p> <p>家にたどり着き、母親との会話を通して変化していくローラの心情を読み取る。</p>		
	<p>前時の学習を振り返る。</p> <p>一人一人が本時の学習範囲を読む。</p>	<p>これまでの学習の流れを確認すること。</p>	<p>前時の評価を生かし、本時の個に応じた指導内容を明らかにしておく。</p> <p><b>【 個に応じた指導と評価】</b></p> <p>ワークシートを2種類用意して、自分で選べるようにする。 <b>【 主体的に学習する】</b></p>
<p><b>ローラの気持ちがどのように変化したか読み取る。</b></p>			
<p>本時の課題を確認する。</p> <p>ローラの気持ちの変化が表れている言葉や文を見付け、サイドラインを引く。</p> <p>着目した言葉から、ローラの気持ちの変化と心情を想像し、ワークシートに書く。</p> <p>読み取ったことを発表し、意見を交流し合う。</p> <p>本時の学習範囲を味わいながら、声に出して読む。</p>	<p>本時の課題をつかむこと。</p> <p>ローラの気持ちの変化をつかむために、着目する言葉にサイドラインを引いたり書き込みをしたりすること。</p> <p>「ローラは立ち止まってしまいました。」</p> <p>「ローラはだまって立っていました。」</p> <p>「ローラはだまって下を向いていました。」</p> <p>「やっと決心して」</p> <p>ローラの行動や母親との会話を基に、ローラの心情にどのような変化が見られたのかを考えること。</p> <p>「やっと母さんは」</p> <p>「しかることもできない」</p> <p><b>【予想される児童の反応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内緒で出かけてとても悪いことをした。</li> <li>・言いつけを守ればよかった。</li> <li>・母さんは自分のことを、本当に大切に思ってくれていることが分かった。</li> </ul> <p>意見の交流を通して、さらに自分の考えを深めること。</p> <p>本時の学習を振り返ること。</p>	<p>母親との会話を通して後悔するローラの気持ちを読み取っている。</p> <p>ワークシート・音読 意見交流による、相互評価</p> <p>&lt;具体的な児童の姿&gt;</p> <p>(B)自分のしたことに後悔しているローラの気持ちを考えている</p> <p>(A)母の驚きや心配にも触れている。</p> <p>(C)Bに満たない</p> <p>これまでのローラの叙述と比較して考えるようにする。</p> <p>叙述を基にローラの心情を想像していくようにする。</p> <p><b>【 優れた叙述に着目して読む】</b></p> <p>ワークシートに振り返り欄を設ける。</p> <p><b>【 個に応じた指導と評価】</b></p>	
<p>生かす</p>	<p>8 「大草原シリーズ」の作品を読む。</p> <p>9 読んだ本のローラについてリーフレットにまとめる。</p> <p>10 ローラ宛に手紙を書く。</p>	<p>自分が選んだ本を読むこと。</p> <p>相手に分かりやすく工夫してまとめること。</p> <p>自分の立場から、ローラの生き方について考えること。</p>	<p>自分で作品を選び進んで読んでいる。</p> <p>公共図書館の協力を得て本を用意して紹介し、選びやすいようにする。</p> <p><b>【 優れた叙述に着目して読む】</b></p> <p>ローラの行動や考えについて、自分なりの考えをもっている。</p> <p>リーフレット 学習材の中のローラと比べて考えるように助言する。</p> <p>ローラの生き方について考え、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>手紙 今までのワークシートやリーフレットに書いたことを参考にするように助言する。</p>

(6) 検証授業の考察（研究主題に迫るための手だてについて）

児童が主体的に学習する指導方法の工夫について

- ・読みの共通の課題と毎時間の読みの課題を設定したことで、登場人物の心情を中心に読み進めることができた。本単元は場面ごとに読み進めていったが、課題別グループ学習などを工夫して、より主体的に取り組めるようにしていく。

優れた叙述に着目して読み進める力を育てる指導の工夫について

- ・本学習材は、高学年分科会研究主題「言葉に着目し、優れた叙述を味わう」ことに適した作品であるかどうか検討する必要があると考えた。そこで検証授業の結果を受け、次のように指導案を修正した。
- ・単元名については、当初、「主人公の成長を読み取ろう」であったが、児童が主人公に親近感をもてるように、「ローラと友達になろう」とした。
- ・単元の目標は、当初、読み取ったことを基に物語の続き話を創作し交流することにより自分の考えを深めることとしていた。しかし、本学習材が開拓者の世界を楽しむ話であり、主題が明確で、登場人物の心情をとらえやすいことから、  
自分の考えを広げたり深めたりするために、本を選んで読もうとする。  
登場人物の行動や情景について、優れた叙述を味わいながら読む。  
と修正した。

- ・単元名・単元目標の修正に合わせて、登場人物に共感しシリーズの本を読むという意味で、学習過程の「生かす」段階には、発展読書として「大草原シリーズ」の中から作品を選んで読む活動を入れた。また、毎時間の学習の終わりに書くことになっていた手紙は、単元の終末の活動とし自分の立場からローラの気持ちを想像することができるようにした。

個に応じた指導と評価の工夫について

- ・自由記述式の振り返りカードに、教師がコメントを書くことで、一人一人の実態や思いに応じた支援ができた。どのように振り返りをしたらよいか戸惑ってしまう児童には、カードに示した観点を基に振り返るようにしたことで、自己評価への意識が高まった。
- ・隣の人・グループ・学級全体など交流の場を工夫したことで、読み深めたり、自分の読みの力を知ったりすることができた。さらに、主体的な交流になるように、その方法や形態を工夫したい。

- ・前単元の評価や毎時間の評価を基にして、支援計画表を作成することにより適切な支援をしていきたい。

	前単元の評価				本単元での支援
	初発の感想	自分の課題	共通の課題	読書	網掛けは特に支援をする
1					情景の描写にも着目させる。
2					繰り返し読ませ、関心をもたせる。
3					言葉のつながりを考えさせる。
4					書き込みをして、自分の考えが明確になるようにさせる。
5					情景の描写にも着目させる。

前単元の評価を基にした支援計画表（例）

## 書写分科会

### 1 分科会研究主題

「文字意識をもち、主体的に言葉(文字)を使う力を育てる指導と評価の工夫」

### 2 書写分科会の実践

#### (1) 単元名 「文字のひみつをさぐろう」

学習材 「左右」 筆順と字形 (教育出版社 4年)

#### (2) 単元の目標

自分の課題を意識して取り組む。

筆順と字形との関係を理解して書く。

点画の長さや方向、字形の関係を理解して書く。

学習して身に付けた力を他の学習の場で生かして書こうとする。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	知識・理解	技能	生活に生かす
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の文字から自分の課題を見付け解決しようとしている。</li> <li>・筆順、字形を意識して書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆順の違いが字形や点画の長さ・方向にかかわっていることを正しく理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点画の長さや方向に注意して書いている。</li> <li>・筆順に気を付けて字を整えて書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆順を意識し点画の長さ・方向、字形に注意して硬筆の文字を書いている。</li> </ul>

#### (4) 研究主題に迫るための手だて

主体的に文字を使う力を育てる指導の工夫

- ・自分の課題に合った学習ができるように、課題に沿った練習用紙を提示し、字形を意識するように正方形の練習用紙を用意する。その他様々な外形の切り抜き用紙で、書いた字をその中に当てはめたり、重ねたりして、字形について自己評価しやすいようにする。その後は自分の課題に合った練習用紙を自作できるようにすることをねらう。
- ・教材文字について押さえるべき目標を共通の課題として記入しておき、試し書きをして発見したことを自分の課題として記入できるようにする。

文字意識をもって取り組むための指導の工夫

- ・書写の学習課題と日常のノート文字を結び付けて考えるワークシートを工夫し、自分の課題を意識して毛筆の学習に取り組めるようにする。
- ・児童が興味、関心をもって本時の課題に取り組めるように、導入において漢字筆順クイズや字形クイズなどを出題し、筆順の違いを楽しんで理解できるようにする。
- ・教室掲示物の表題を毛筆で書いて示すことで、学習の成果を日常の様々な場面で生かせることを理解できるようにする。

個に応じた指導と評価の工夫

- ・発達段階に応じて、評価項目をあらかじめ書き込んで選択できるようにする。この経験を積ませることで評価の観点を理解させ、高学年では文章化した観点を自己評価ができるようにする。

(5) 単元の学習計画・評価計画 (2時間扱い) (検証授業の本時1/2)

過程	主な学習活動	指導事項	評価計画 評価規準 評価方法 支援 研究主題に 迫るための手だて【工夫】
課題に気付き、付く	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"><b>文字のひみつをさぐる 「左右」</b></p> <p>「左右」を試し書きする。                      ・「左右」という文字の秘密を考える。                      「筆順クイズ」に挑戦しよう!                      ・試し書きの一回目にシールを貼る。                      「字形クイズ」に挑戦しよう。                      ・「字形」に注目する。                      ・横画とはらいの長さの違いに気付く。                      試し書きと教材文字を比べて自分の課題を見付ける。                      ・試し書きの用紙に赤で課題を書き込む。                      自己批評し、自分のめあてを決める。                      ・自分の課題解決のための見直しをもつ。</p>	<p>書く文字を知ること。                      * 「文字のひみつ」とは正しく整った文字を書くためのコツ</p> <p>「左」と「右」の筆順を確認すること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「左」と「右」では筆順が違う</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">字形が違う 左... 右...</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">二画めは長く書く</div> <p>自分の課題を試し書きから見付けること。</p>	<p>正方形の紙を二枚渡し、右と左と一枚ずつ書いて、比べられるようにする。</p> <p>【主体的に文字を使う】クイズ形式により、筆順に関心をもたせ、筆順が字形に関係することを気付くようにする。</p> <p>【文字意識をもつ】「左」と「右」の由来なども掲示し、関心を高める。</p> <p>様々な字形の切り抜き( )を提示し、教材文字が当てはまる字形を探す。                      教材文字と試し書きを見比べて、自分の文字の課題を見付け、解決しようとしている。                      文字のひみつカード・活動の様子</p>
本時の目標	筆順と字形の関係を理解して、自分の課題を見付け、意識して書いている。		
解決する	<p>筆順や字形の違いを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">筆の達人への道</p> <p style="text-align: center;">「左右のひみつ」大発見! 筆の達人になろう</p> </div> <p>学習のねらいを知る。</p>	<p>「左右」の分解文字のどの画が違うかを考えること。(文字意識)</p> <p>基本点画を意識させながら</p>	<p>「左右」の横画とはらいの入れ替わった分解文字を提示する。</p> <p>筆順と字形の关系到気</p>

課題を知る

課題をつかむ

追究する

確認

発展

・「左右」という文字を発見した秘密を意識して書くことを知る。  
 ・めあてを意識しながら空書する。

- ③文字の秘密カードを見直し、自分が見付けた文字のひみつを確認する。  
 ④「左右」を上手に書くためのポイントをつかむ。

- ⑤自分の課題を見直し、自分の選択した方法で練習する。  
 ・自分の課題に合った練習用紙を選ぶ。

- ⑥練習ごとに自己批評する。  
 ⑦まとめ書きをする。自己評価し、友達と伝え合う。

- ⑧本時の学習を生かして、硬筆練習をする。  
 〈筆順クイズ〉  
 ・横画を先に書くもの「左」「友」  
 ・はらいを先に書くもの「右」「有」

大きく空書すること。

〈ポイント〉  
 「左」と「右」の一画目と二画目を比べる

- ①筆順が違う  
 「左」・横画から  
 「右」・はらいから  
 ②画とはらいの長さが違う  
 「左」・はらいが長い  
 「右」・横画が長い

「左」と「右」の字形の違いに気付く  
 ①「左」・左ばらいは下が広がる (△)  
 ②「右」・横画が長い・上が広がる (▽)



- 試し書きと比べまとめ書きのよくなったところを見付けること。  
 ○既習の文字の中にも本時とかわる文字があること。  
 「左」「友」「反」字形△  
 「右」「有」…… 字形▽

付いて課題作りをしている。

☆試し書きに書き込んだポイント

〈具体的な児童の姿〉  
 (B)「左」は△、「右」▽という字形の特徴をつかんで課題作りをしている。

- (A) 字形と点画の長さに着目している。  
 (C) Bに満たない

- ◇本時のポイント以外の課題も認める。  
 ◇ポイントについて個別指導する。

◇課題別の練習用紙を用意し、自分で選べるように練習用紙のねらいを説明する。

◇選択できる評価項目を示す。

【③個に応じた指導と評価】  
 ◇友達のよくなったところを見付け、めあてを意識して取り組めたかを伝え合う。

生活に生かす

- (日常化) 正しく整った文字で書くように意識する。  
 漢字テストや作文の時に文字を意識して書くこと。(硬筆)  
 (特別活動) 行事のパンフレットや看板を書くこと。(硬筆及び毛筆)

(6) 検証授業の考察（研究主題に迫るための手だてについて）

① 主体的に文字を使う力を育てる指導の工夫について

- ・「文字のひみつをさぐろう」のワークシートには、共通の課題とともに、教師が用意しためあての中から児童が自分のめあてを選択できるようにした。自分の課題は自分で考えるようにしたいが、発達段階を考慮して、めあてを選択する段階も必要であると考え。課題意識は、練習用紙を選択するとき、教師の直接指導など様々な場面を通して意識させていく必要がある。
- ・自分の課題に合った練習用紙を選択することによって、課題を解決する方法が身に付く。児童の実態からすると、興味だけで取り組む傾向があるため、練習用紙がどの課題を解決するためのものであるのか明確に指導、支援していく必要がある。また、この経験を積み重ねることで自分の課題に合った練習用紙を作成する意欲につながる。
- ・正方形に切ったまとめ書き用紙は、児童が縦に並べたり横に並べたりして「左右」の外形の違いを知る上で有効であった。
- ・児童・生徒がもつ課題は、文字の構成の部分的なものであると考え、練習用紙も部分練習のできるものを用意した。しかし、検証授業においては、「左右」の二文字が書いてあるかご字や線書きを選択する児童が多く、左はらいや横画といった部分練習を選ぶ児童は少なかった。このことから、4年生という発達段階においては、教材文字全体を上手に書きたいという願いが部分的な練習よりも優先することが分かった。さらに今後、文字の構成を学び理解していくことで、自分の課題の分析がより詳細になり、部分練習に取り組む解決していくものとする。

② 文字意識をもって取り組むための指導の工夫について

- ・日常の文字の課題を毛筆書写によって解決することは、文字の構成について再認識することになり、日常の文字へ生かせるものと考えられる。さらに様々な学習の場面をとらえて文字を意識させることも必要である。
- ・単元のめあてを意識し、興味をもって学習に取り組める「漢字筆順クイズ」や「字形クイズ」により本時の課題が明確になり、学習文字を意識した自己の課題作りにつながった。

	<p>課題意識をもって、自己評価 できるワークシート</p>	
<p>縦に並べる → 横に並べる ↓</p>		<p>主体的に課題を解決 するための工夫</p> <p>「正方形の練習用紙」 外形の違いが縦横自由に 並べかえることで明確に なった。</p>
		

## 研究の成果と課題（成果 課題）

### 1 文学的文章を読むことについて

児童が主体的に学習するための指導方法の工夫

共通の課題や自分の課題をもつこと及び学習の見通しをもつことが、児童の主体的な学習につながるということが分かった。課題設定は、教師と共に、児童の話し合いで、児童自らがつくるなど、発達段階に応じることが望ましい。課題に沿った学習計画、各時間での学習の基本過程の繰り返しなどの工夫により、学習の見通しがもてるようになった。

学習材の特徴に応じて、どのような課題・言語活動が適切であるか、さらに検証する必要がある。言葉に着目して想像豊かに読む力を育てる指導の工夫

「読みの過程に沿った指導事項と言語活動の例」（巻末資料1）は、指導事項を焦点化し、効果的な言語活動を工夫していく上での指標となった。

読みの過程においては、個の読みを十分に確保した上で、読みの交流を行うことが大切である。個の読みは、発達段階と作品の特徴に応じた言語活動を通して、言葉に着目し、その言葉から自分の読みがもてる場をつくることで保障される。読みの交流は、 出会う（初発の感想や学習したいことの交流） 読み進める（個の読みの交流） 生かす（読書や表現の交流）の各学習過程での工夫や、二人組・グループ・全体等話し合いの形態の工夫が考えられる。

サイドラインや書き込み、音読等の言葉に着目する手だてをどのように活用するか、きめ細やかに考えていく必要がある。

読みの交流を生かすような課題の絞り込みや一人一人の読みに戻す工夫が求められる。

個に応じた指導と評価の工夫

「文学的文章を読むことの評価規準（例）」（巻末資料2）を基に、座席型評価・支援カードなどを活用し適切な支援をすることにより、個の読みの力を伸ばしていくことができる。

一人一人の読みのめあてや読みの深まりが分かる手だてを工夫することにより、児童は自分の読みの力を確かめ自己評価に生かすことができる。

各単元の評価規準の妥当性について、さらに検証する必要がある。

支援の方法について、より効果的・多様な方法を探ることが求められる。

### 2 書写について

主体的に文字を使う力を育てる指導の工夫

共通の課題と自分の課題を設定し、課題に沿った学習方法を選択できることにより、主体的に言葉を使う力を身に付けることができた。

文字意識をもって取り組むための指導の工夫

導入において、文字に関する情報を様々な視点で示すことにより、文字への意識を高めることができた。

指導内容に合った文字に関する情報を、より興味・関心をもって生活に生かすことができるか考えていく必要がある。

個に応じた指導と評価の工夫

「書写の評価規準（例）」（巻末資料3）を基に、一人一人の課題に沿った支援を行うことにより、書写の基礎・基本を身に付けることができた。

資料1

読みの過程に沿った指導事項と言語活動の例

	読みの過程	指導事項	言語活動の例
低学年	出会う	作品に興味をもつこと	昔話や童話などの読み聞かせを聞く。 作品に関連した話や同じ作者の作品の読み聞かせを聞く。 題名や挿絵から想像したことを発表し合う。 作品を読み興味をもったことを発表する。
		読みの課題をもつこと	学習したいことを発表し合い、教師と共に共通の課題をつくる。
	読み進める	粗筋を押さえながら、内容の大体を読むこと	絵や写真などを見て想像を膨らませたことを発表する。 興味をもったところを発表し合う。 場面の様子が分かるところを発表する。 挿絵などを手がかりにして場面を分ける。
		叙述に即して想像を広げながら読むこと	場面の様子や人物の気持ちについて想像したことを話し合う。 場面の様子が分かるところや声に出して読みたいところにサイドラインを引く。 場面の様子を動作化する。 人物の気持ちを吹き出しに書く。 好きな文や場面の様子が分かる文を視写する。 登場人物になったつもりで手紙を書く。
生かす	内容、響きなどを考えながら、声に出して読むこと	声に出して読んだり、劇のように表現したりする。	
		読書を楽しむこと	自分の読みたい本を探して読む。(昔話・童話・同じ作者の作品) どんな本を読んだか題名や内容を簡単にメモする。 読んだ本の好きなおもしろいところや興味をもったことについて知らせ合う。 お話会・紙芝居・紙人形劇・音読発表会をする。
【言語事項】 明確な発音・平仮名・片仮名・長音・拗音・促音・撥音・句読点・かぎ・主語と述語・敬体で書かれた文章			
中学年	出会う	心に残る場面や言葉を見付けながら読むこと	関連した作品の読み聞かせや紹介を聞く。 題名や挿絵から想像したことを発表し合う。 作品を黙読・音読する。 最初の感想を文や絵で表現する。
		読みの課題をもつこと	学習したいことを発表し合い、共通の課題をもつ。
	読み進める	中心となる語や文をとらえ、場面の移り変わりを考えながら文章の内容を正しく読むこと	時間の経過や話の展開を基に場面を分け、小見出しをつける。 場面の様子や人物の性格・行動について分かる言葉にサイドラインを引く。
		場面の移り変わりや情景、登場人物の性格や行動を叙述を基に想像しながら読むこと	場面の様子を動作化する。 人物の気持ちを吹き出しなどに書く。 二つの場面を比べて読む。 登場人物になったつもりで日記を書く。登場人物へ手紙を書く。
		読み取った内容についての自分の考えをまとめること 一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと	叙述を引用しながら自分の思いを書く。 叙述を基に考えを深め合う話し合いをする。 心に残る表現を書き留める。
		書かれている内容の中心がよく分かるように読むこと	区切り目や大事な言葉を明瞭に音読する。 役割を決めて声に出して読んだり、劇のように表現したりする。
生かす	読書分野を広げて読むこと 学習した読みの方法を活用すること	文章の種類を広げて読書をする。(登場人物や作者のつながり・民話・外国の話) 自分の読書経験を簡単に記録する。 作品の紹介をし合う。 音読発表会をする。	
【言語事項】 適切な音量や速さ・送り仮名・句読点、改行・辞書の利用・修飾と被修飾・指示語、接続語			
高学年	出会う	作品の主題に迫る言葉に着目しながら読むこと	題名から想像したことを発表し合う。 作品を黙読・音読する。 最初の感想を文や図で表現する。
		自分の課題をもち、学習の見通しをもつこと	学習したいことを発表し合い、共通の課題をもつ。 自分の課題に沿って学習計画を立てる。
	読み進める	目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえて読むこと	課題に沿って、短く要約したり、文章の必要な部分を詳しく読んだりする。 内容や作者の意図を簡潔に押さえ、整理して書く。
		登場人物の心情や性格、考え方、情景などの表現に着目しながら読むこと 話の展開の効果に気付きながら読むこと	文章構成や語句の使い方、文末表現に着目して、登場人物の心情をとらえて書く。 優れた表現を書き留める。
		自分の考えを明確にしながらかつ読むこと	文章構成や語句の使い方、文末表現に着目して、自分の思いや考えを書く。 読みを深めるための話し合いをする。
	自分の課題に沿って、効果的な読み方を工夫しながら読むこと	目的に応じて、音読、黙読、速読や比べ読みなどの読み方を適宜使いながら読む。	
生かす	読書を通して自分の考えを深めること 学習した読みの方法を課題に応じて活用すること	自分にとって価値のある書物を様々な方法で工夫して紹介する。 共通の作品を読み人物の心情や情景描写等について気付いたことを発表し合う。 同じ作者の作品を読み比べて、分かったことや考えたことを報告する。 小学校生活の読書経験を振り返る。	
【言語事項】 送り仮名、仮名遣い・語句の構成、変化・辞書の利用・語感に関心をもつ・文章の構成・敬語の使い方・共通語と方言			



資料2

「文学的文章を読むこと」の評価規準（例）

		国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
低 学 年	読書	易しい読み物を楽しんで読もうとしている。	読み聞かせや本の紹介を聞いて、易しい読み物を読んでいる。 興味のある所を見付けながら読んでいる。	平仮名及び片仮名を正しく読んでいる。 当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 文体を意識して敬体で書かれた文章を読んでいる。 主語と述語の関係に注意して読んでいる。
	叙述	易しい読み物の内容の大体をとらえて読もうとしている。	粗筋を押さえながら、内容の大体を読んでいる。	
	想像	自分なりに想像を膨らませて読もうとしている。	場面の様子などについて、叙述に即して想像を広げながら読んでいる。	一つ一つの語句や表現に注意しながら読んでいる。 繰り返しのおもしろさに気付きながら読んでいる。
	音読	声に出して楽しんで読もうとしている。	語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読んでいる。	姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で読んでいる。 句読点に気を付けて読んでいる。
中 学 年	読書	幅広くいろいろな読み物に興味をもち読もうとしている。	読んだ内容等に関連する他の文章を選び読んでいる。 読書分野を広げて読んでいる。	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 語句には、性質や役割の上で類別があることを理解している。 国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、必要に応じて活用している。
	叙述	中心となる語や文を選び出そうとしている。	中心となる語や文をとらえている。 場面の移り変わりを考えながら文章の内容を正しく読んでいる。	文の構成についての初歩的な理解をしている。 場面の移り変わりを示す手がかりとして接続語の役割を理解している。 主語と述語、修飾と被修飾の関係に注意して読んでいる。
	想像	叙述を基に情景を想像しようとしている。	場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読んでいる。 登場人物の性格や行動を、叙述を基に想像しながら読んでいる。	文脈における言葉の意味、語感など、表現の役割や価値をとらえながら読んでいる。
	感想・意見	一人一人の考えや感じ方に気付いて読もうとしている。	読み取った内容についての自分の考えをまとめている。 一人一人の感じ方について違いがあることに気付いている。	自分の考えの根拠となる語句や文に気付き、自分の考えをまとめる文に活用している。
	目的	課題をもって読もうとしている。	課題に沿って、大きくまとめて文章を読んでいる。 課題に沿って、必要となる細かい点に注意して読んでいる。	課題に沿って、手がかりになる言葉に着目して読んでいる。
	音読	書かれている内容の中心がよく分かるように声に出して読もうとしている。	書かれている内容の中心がよく分かるように声に出して読んでいる。 場面の様子がよく分かるように声に出して読んでいる。	その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで読んでいる。
高 学 年	読書	自分の考えを広げたり深めたりするために読書をしようとしている。	自分の考えを広げたり深めたりするために主体的な立場で文章を選び読んでいる。	当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 話の流れや登場人物の心情をつかむための語句について、辞書を利用して調べる。 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。 擬態語や比喩を理解し、その効果について考えている。
	叙述	話の展開に即して、内容をとらえようとしている。	話の展開をとらえ、短くしたり言い換えたりしてまとめている。 描写や表現の工夫をとらえながら読んでいる。	文章にはいろいろな構成があることについて理解している。 文語調に親しんでいる。
	想像	優れた叙述を味わおうとしている。 登場人物の心情を表現や叙述と関係付けて、自分の読みを確かなものにしようとしている。	登場人物の心情や考え方などを多面的にとらえている。 登場人物の心情や考え方、情景などの表現に着目しながら読んでいる。 叙述を基に、人物の心情や情景を豊かに想像して読んでいる。	表現のよさ、表現の効果を感じ取って読んでいる。
	感想・意見	自分の立場からの考えをもって読もうとしている。	自分の考えを深めながら読んでいる。 友達の考えと比べながら、自分の考えをまとめている。	文章構成や文末表現に着目して読んでいる。 話の展開の仕方を理解している。
	目的	課題をもって読もうとしている。 効果的な読み方を工夫しようとしている。	課題に沿って、様々な読み方で読んでいる。 自分の読みを深めるために、効果的な読み方を工夫している。	作者の述べ方を理解している。 辞書や辞典を活用している。 十進分類法の概略を理解している。 音読・黙読・速読や比べ読みで読んでいる。

**資料3 書写の評価規準（例）（小学校及び中学校）**

	小学校1年・2年	小学校3年・4年	小学校5年・6年	中学校1年	中学校2年・3年
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や用具の正しい持ち方を意識している</li> <li>文字を正しく丁寧に書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬筆、毛筆を使用して、文字を整えて書こうとしている。</li> <li>漢字と平仮名の大きさを意識して書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の文字に対して課題意識をもっている</li> <li>自己の文字を読みやすく書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写や身近にある文字について関心をもち、進んで書き表そうとしたり、伝え合おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写や文字に関心をもち、場面や目的に合わせて書くことにより、自らの生活を豊かにしようとしている。</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい文字の書き方と整え方を理解している。</li> <li>姿勢や用具の持ち方を正しく理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の組み立て方、文字の形、文字の大きさや配列について正しく理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の形、大きさ、配列などを理解している。</li> <li>点画の筆使いや文字の組み立て方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の行書の基礎的な書き方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解している。</li> </ul>
技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の組み立て方に注意して文字の形を整えて書いている。</li> <li>文字の大きさや配列に注意して書いている。</li> <li>毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方に注意しながら、文字の形を整えて書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬筆・毛筆による文字の組み立て方を理解して、正しく整った文字を書いている。</li> <li>硬筆による配列、毛筆による字配りを理解して書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>字形を整え、文字の大きさ、配列、配置に気をつけて書いている。</li> <li>漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮して書いている。</li> <li>目的や必要に応じて調和よく、読みやすく、速く書こうとしている。</li> </ul>
生活に生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノートの文字を丁寧に書こうとしている。</li> <li>同じ点画の文字や言葉を丁寧に書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手紙などの書式を活用して、生活に生かそうとしている。</li> <li>平仮名の特徴をいかして、書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きな語句や年賀状、寄せ書き、俳句などを書く時、学習したことを活用しようとしている。</li> <li>行事に学習を生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の教科と関連させたり、依頼や礼状に学習したことを活用しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や卒業文集などに書写の学習を生かそうとしている。</li> <li>書写の美しさを鑑賞しようとしている。</li> </ul>

評価規準についての参考文献  
 「小学校学習指導要領解説 国語編」（文部科学省）  
 「評価規準の作成、評価規準の工夫改善のための参考資料（小学校・中学校－評価規準、評価方法等の研究開発）」  
 （国立教育政策研究所教育課程研究センター）  
 「平成14年度教育研究員報告書（小学校国語）」（東京都教職員研修センター）

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 勝田印刷株式会社